

「オラほの学校」を目指して ～地域に根ざした学校づくり～



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
湯上市立 羽城中学校	羽城中学校運営協議会 平成30年5月1日 設置	地域学校協働活動推進員 0名 0名 地域コーディネーター 0名 1名	羽城中学校区地域学校協働本部



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

本校では、学校教育目標「自ら考え、行動する」の下、「地域とともにある学校づくりと郷土愛の醸成」を経営の重点の一つに掲げ、「地域とともに育つ学校」、そして「地域に誇りをもつ生徒の育成」を目指し、教育活動に取り組んでいる。学校運営協議会では、学校と地域との交流の在り方について協議することが多く、令和3年度の第1回学校運営協議会では、「コロナ禍で生徒の活動を見る機会が減っている」「生徒と地域住民との対話的な学びの機会がない」という課題が挙げられた。

目標や目指す姿(学校)

地域に根ざし、地域と共に育つ学校づくり

目標や目指す姿(地域)

「オラほの学校」～地域の力を学校へ～



羽城中学校運営協議会

の特徴

委員の立場や属性等

- | | |
|---|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 地域コーディネーター | <input type="checkbox"/> 元教員 |
| <input type="checkbox"/> 保護者代表 | <input type="checkbox"/> 僧侶 |
| <input type="checkbox"/> PTA活動に長年携わった地域住民 | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 地域の企業経営者 | など、計 10 名で構成 |
| <input type="checkbox"/> 地域おこし活動の推進者 | 年間平均 3 回程度開催 |

効果的な運営の工夫

学校運営協議会は、委員の互選により選任された会長が協議を進行し、学校経営や協議題に関する質問や意見を効果的に引き出している。協議題は、学校運営の改善に資するように学校評価の結果等を基に決定している。また、学校運営協議会の内容や地域学校協働活動については、学校報、学年通信等で保護者に随時周知している。学校運営協議委員には、学校報を始めとした文書の他に、メールによる情報提供を行い、学校の様子を伝えている。また、授業参観に加え、文化祭や体育祭などの学校行事にも参加していただき、多様な生徒の姿に触れることができるようにしている。



特徴的な取組と成果・効果

学校運営協議会

上記の課題について、学校運営協議会では、地域住民との対話や交流の機会が必要であると考え、生徒・教職員と地域の多様な立場の人々が参加し、「地域の魅力～今できること・未来の姿～」をテーマに、熟議「羽城中を語る会」を行った。



熟議「羽城中を語る会」

地域学校協働活動

熟議「羽城中を語る会」で協議、提案された内容をもとに、学校運営協議会委員も兼務している地域コーディネーターが地域ボランティアや地域の諸団体に呼び掛け、学校やPTAと連携し、「ゴミゼロプロジェクト」の清掃活動を行った。



「ゴミゼロプロジェクト」

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

- ◆熟議「羽城中を語る会」実施までの準備については、第2回学校運営協議会で協議するとともに、地域コーディネーターが中心となり、飯田川地区の有線放送を活用するなどして地域住民の参加を募った。また、熟議終了後には、その内容について学校報や研修会等で広く情報発信を行った。
- ◆本市では、小・中学校9校全てに地域コーディネーターが配置されている。中学校区ごとの地域コーディネーター同士による情報交換は日常的に行っており、中学校区内の地域人材の把握や活用につながる情報を共有している。そのため、学校や地域の要望に応じた「ゴミゼロプロジェクト」が可能になった。

取組

成果・効果

【指標】

	指標1	指標2	指標3
	地域の要望等を教育活動に生かしている	地域人材の活用を図っている	地域のためになる活動に取り組みたい
R1	80 %	85 %	83 %
R3	85 %	90 %	94 %

【学校や参画する地域住民等の声】

〈熟議「羽城中を語る会」に参加しての感想〉

- ◆今まで地域について知らなかったことをたくさん教えていただき、ためになった。今後、生徒会活動や地域の行事などに今回の交流を生かしたい。(2年生徒)
- ◆地域のよさや学校の在り方について改めて考えることができた。(保護者)
- ◆生徒や先生方と学校について意見交換ができ、有意義だった。(地域住民)
- ◆生徒や地域の方々の地域に対する思いに触れる貴重な機会だった。(教職員)

※指標1・2は「保護者による学校評価」、指標3は「県学習状況調査質問紙」、それぞれの該当する項目の肯定的な回答の割合を示す。

- ◆地域コーディネーターの働き掛けにより、「自分たちができる活動で学校を応援しよう」という地域連携の輪が広がった。
- ◆生徒が当事者意識をもってボランティア活動に参加することにより、地域貢献したいという意欲の高まりが見られるようになった。
- ◆熟議を通して学校や地域の課題や方向性を共有化することにより、学校と地域との連携・協働の意識が高まった。